事例No.	2633
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	小松　圭子

事例区分	地域活性化

タグ	・観光 ・移住定住 ・関係人口

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

小松　圭子

出典

平成28年度ふるさとづくり大賞事例集

小松　圭子　　高知県安芸市

概　　要

半世紀で800人いた人口が40人になった畑山地域で、高知県の地鶏「土佐ジロー」を地域振興策に掲げる養鶏農家に共感。愛媛新聞社記者を経て、養鶏農家と結婚し移住。「畑山を人が暮らせるむらにしたい」と、地鶏の生産加工販売に加え、食堂・宿を運営することで六次産業化を図り、過疎集落で雇用を創出。現在、食堂宿には年間3,000人が訪れている。



評価された点

・地鶏を核としながら、少しずつ地道に地域づくりを進めている。人口40名の集落に、3,000人が訪れるインパクトは大きい。
・「土佐ジロー」を活かし、山村の自律と自立を実践しながら、地域振興につながる様々な取組みは、人口減少、高齢化が著しく進む過疎集落の可能性を示すとともに、その持続可能な経営体制の構築に向けた努力などは、各地の山村における「地域おこし」のモデルとなるものである。
・六次産業化で、具体的な事業に取り組み、雇用創出している実績は評価に値する。
・幻の土佐ジローを全国区にし、コミュニティ・ビジネスの創出も含め、地域活性化した点を評価。
・こういった移住者が活躍していることをもっと多くの人に知ってもらい、地域を元気にしていくようになればいいと思う。3,000人の効果は大きいと思う。

